

[講演要旨] 安政東海地震・南海地震 (1854) による

河川閉塞・新湖出現記録

都司嘉宣 (東京大学地震研究所)

§ 1 . はじめに

安政東海地震(1854-a)によって、斜面崩壊が発生し、河川の閉塞が起きて新湖が出現した、という事例は、静岡県内で5ヶ所で発生していたことが記録されている。

安政南海地震(1854-b)による同様の記録は、徳島県で1ヶ所、高知県で5ヶ所で起きていたことが知られている。

§ 2 . 安政東海地震(1854-a)による河川閉塞・新湖出現記録

安政東海地震(1854-a)による、河川閉塞・新湖出現の記録は、静岡県内の5ヶ所で起きているが、その分布は図1の通りである。筆者はこれら各地点を訪問し、おのおの地元での伝説証言を得た。浜松市天竜区大沢では崩壊地点を特定することができなかった。

2.1 白鳥山東斜面崩壊による富士川の閉塞 白鳥山の東側斜面による富士川の本流の閉塞は

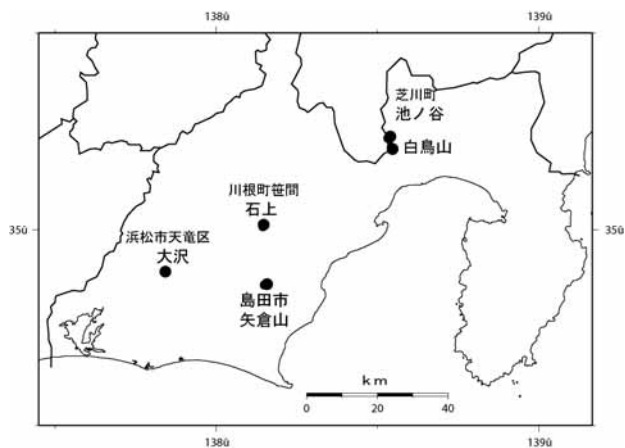


図1 . 安政東海地震(1854-a)による新湖出現場所

宝永地震(1707)の時にも起きているが、安政東海地震の時にも起きている。下流の流水が停止したが、わずか1日ほどで決壊した。橋上集落に犠牲者の供養碑がある。

2.2 富士川支流稲子川の池之谷(いけのや)地点での河川閉塞 富士川の支流・稲子川では、花ノ木地点で右岸斜面の崩壊があり、新湖が出現して池之谷集落が浸水し、約2キロ上流の寺平にまで

湛水があった。同集落の後藤家の石垣上端近くまで水位が達し。ダム高は約25mと推定される。

2.3 島田市矢倉山西斜面の崩壊による新湖出現

島田市矢倉山の西斜面には、地震によって大亀裂を生じた。地震の約4ヶ月後の安政2年2月の大雨で大崩壊が起き、八倉池を生じた。

2.4 川根町笹間地区石上での新湖出現

『笹間村誌』(T1-587)には「安政元年、地大に震う。遠見場山の一部崩壊して、石上奥にて笹間川を堰き止め流水を中断す。この間およそ二ヶ月余。崩壊地を隔つる約一里(4km)上流の粟原まで一面の湖水をなす」と記されている。

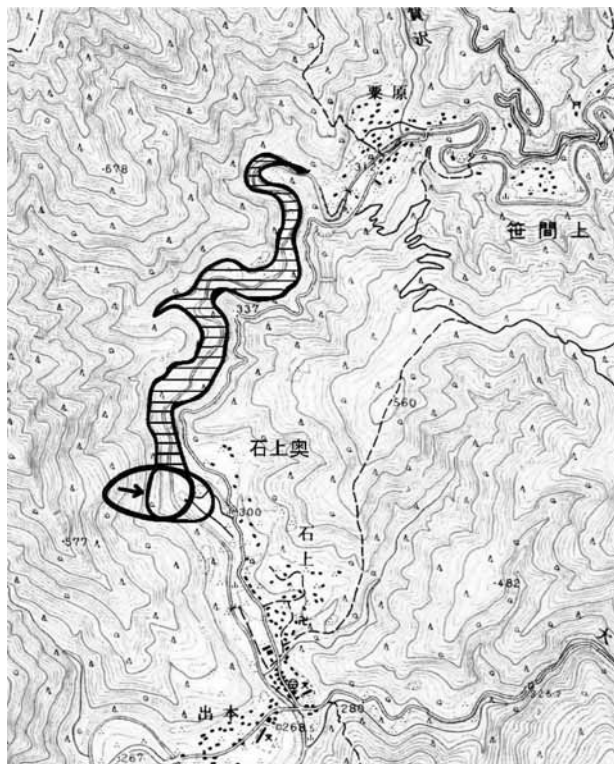


図2 . 静岡県川根町笹間地区石上に生じた新湖 石上集落では、このときの崩壊堆積の痕跡を見ることができる。粟原(おうばら)集落に湛水が達するためには、湖水面の標高は約300mであり、ダムは約30mの高さがあったと推定される。

3 . 安政南海地震による河川閉塞・新古出現

徳島県阿南市新野で海老川、高知県香北町白川、佐賀町伊予木川、仁淀村長者川、土佐清水市三崎の各地点で、河川閉塞・新湖の出現があった。